

第 42 回関東地区公立中学校
修学旅行研究発表会
研究紀要



期 日：平成 18 年 11 月 22 日(水)

会 場：流山市生涯学習センター(千葉県流山市)

主 催

関東地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援

千葉県・流山市・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県 各教育委員会
千葉県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県 各中学校長会

研究発表会の趣旨

修学旅行は近年、訪問地や体験の幅が広がり、その形態が多様になってきました。しかし、望ましい集団活動、個人的資質の向上、社会性の涵養、自主性・実践性の育成、人間としての生き方への志向といった“修学旅行の価値”は変わっていません。まさにこうした価値を追究していくことが修学旅行の目的なのです。その意味で、何を体験させるかということ以上に、体験によって何を学ばせるのが大切なのです。

現在、学校教育の中心課題となっている「生きる力」とは、「生涯において生起される課題を自ら解決できる力」だと考えます。その力を育成するために教科、道徳、総合的学習、そして特別活動があります。教科は学問から、道徳は生き方・あり方から、総合的学習は身の回りを取り巻く課題から、特別活動は自治的活動や集団づくりといったように、それぞれの領域を生かした課題をもとに追究していくことが求められています。

修学旅行についても、「生きる力」を育成する観点から、自治的・集団的活動をもとに、学校では経験できないものとの出会い・ふれあいを通して、“学びの創造”に取り組む必要があると思います。つまり学びの価値を与えていく意図的な学習計画があるべきです。

今日各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨を汲み取り、子どもたちの主体性を生かし、さらには教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「修学旅行における『学び』の創造」を掲げ、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があることと考えます。

目 次

1	研究発表会次第	1
2	あいさつ	
	関東地区公立中学校修学旅行委員会会長	勝 呂 哲 2
	財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中 西 朗 3
3	研究発表	
	主題 「修学旅行における『学び』の創造」	
	・発表 1	 5
	「ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅」	
	- 3年間を見通したキャリア教育を核として -	
	千葉市立みつわ台中学校	教諭 根本 晃男
		教諭 平野 正春
	・発表 2	 19
	「日本文化探究をととした生徒の向上」	
	流山市立南部中学校	教諭 村山 義則
4	指導講評	 37
	千葉県教育委員会教育振興部指導課 指導主事 大槻 秀一 様	
5	研究発表のあゆみ	 38

研究発表会次第

1 大会主題 「修学旅行における『学び』の創造」

2 日 程

(1) 受付 (13:00～13:30)

(2) 開会行事 (13:30～13:50)

・ 開会のことば

関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長 森 收

・ 主催者あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 勝 呂 哲

財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中 西 朗

・ 来賓祝辞

千葉県教育委員会教育長 佐 藤 健太郎 様

流山市教育委員会教育長 鈴 木 昭 夫 様

・ 来賓及び指導者紹介

(3) 研究発表 (13:50～15:00)

・ 関修委の調査研究及び活動報告

関東地区公立中学校修学旅行委員会

研究委員会委員長 種 田 斉 吾

・ 発表 1

「ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅」

-3年間を見通したキャリア教育を核として-

千葉市立みつわ台中学校 教諭 根 本 晃 男

教諭 平 野 正 春

・ 発表 2

「日本文化探究をととした生徒の向上」

流山市立南部中学校 教諭 村 山 義 則

(4) 休 憩 (15:00～15:15)

(5) 研究協議 (15:15～15:45)

(6) 指導講評 (15:45～16:05)

千葉県教育委員会教育振興部指導課 指導主事 大 槻 秀 一 様

(7) 閉会行事 (16:05～16:15)

・ 閉会の言葉

千葉県中学校修学旅行委員会副委員長 大久保 雅 従

・ 諸連絡



研究発表会の開催に当たって

関東地区公立中学校修学旅行委員会
会 長 勝 呂 哲
(千葉県立葛城中学校長)

初めに、第42回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が皆様の熱意により、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、この時期、各中学校におかれましては、今年度の修学旅行も無事に大きな成果を納められ、新たに次の準備に入っている頃と推察いたします。生徒たちはこの行事により、実に多くのことを学び、大きく成長します。新しい土地で新しい人々に出会い、様々な体験や見学などをする中で、鋭い五感を通じて沢山のことを吸収します。学校と家庭・地域を離れて、平素とは異なる新鮮な環境と程良い緊張感の中での生活により、若く新鮮な五感を一層鋭敏にし、その中で見聞を広め、自然や文化を知り親しみ、集団生活の在り方や公衆道徳などの望ましい体験を積んで成長してきています。

これまで、修学旅行の効果を高めるための改善が進められ、活動メニューに体験型の活動を多く取り入れたり、旅行地・施設等の点検・変更を加えたり、移動・輸送手段や形態の改善や工夫がされてきたところです。今日、修学旅行は、特別活動の目標の中で、生徒たちの達成感や満足感を求めて、先生方や生徒たちのたゆまぬ努力と工夫がされ、事前・事後の取組を通して創造的でバラエティに富む実に多くの形が展開されており、その実現に携わる関係者には敬意と感謝を表する次第であります。

今、教育界は学力問題、いじめ問題など喫緊の課題が山積しております。また、学習指導要領の改訂に向けて、学校の自主性・自律性が今までにも増して求められる中で検討作業が進み、その内容とともに実施時期についても取りざたされる状況です。各学校においては、学校教育における修学旅行の果たす役割を押さえ、その位置づけを十分に検討し、教育課程の編成の準備が必要となってきます。それは、生徒たちにとって、人々との交流を楽しみ、各地のよさに気づき、修学旅行に行って良かったとなる活動です。更に、元気がついた、自信が沸いた、目標ができた、友達のよさを再発見した、などの実感が得られる創造的な活動となることだと思っています。

これまで、当委員会は各学校の先生方の熱い思いが結集され、生徒たちの修学旅行が達成感とともに思い出深く意義深いものになるよう研究協議をされる場として、また、調査連絡調整等を図る場として機能してきたところであります。本日の研究発表会を通して、修学旅行の創造性や安全性とともに、生徒たちが集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資するような計画・活動等の提案、実践例の紹介、情報交換等により、研究協議が深められることを祈念いたします。

最後に、本日の開催に当たり、ご指導ご助言を頂きました千葉県教育委員会、流山市教育委員会、千葉県中学校長会並びに関係諸団体、財団法人全国修学旅行研究協会、千葉県中学校修学旅行委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。

関東地区公立中学校



修学旅行研究発表会の開催にあたって

財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 中 西 朗

各方面のご支援を受け、ここに、第 42 回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。この開催にあたり、各県教育委員会・中学校校長会、特に開催地の流山市教育委員会・中学校校長会のご支援に心から御礼申し上げます。

現在、新しい教育課程に向けての論議が進行していますが、今後とも修学旅行に求められるものは、「いろいろな土地を訪れての体験活動」でしょう。その体験活動は、作業体験のみならず、その地ならではの五感を通しての学びの体験です。見ることも聞くことも含めて、多くの友と共有する体験から得られる心の感動が与えられます。

私は今年、器との触れ合いを体験しました。日常何の気なしに使っている茶碗や汁椀にこだわり、漆器は輪島、陶器は備前を訪れました。

漆は 6,800 年前頃から利用され、日本最古の漆塗り製品が能登半島から出土しています。その後脈々と受け継がれてきた輪島塗の伝統は、すばらしい製品を世に出しています。漆器が japanware といわれるほどに、日本文化として花咲いています。輪島を訪れ、漆のもつ不思議さ、木地・塗り・加飾の気の遠くなるような工程を経て作り出され製品への輪島塗に携わる人々の想いが手にした器から伝わってきました。輪島市内の全小中学校と市民病院では、給食に輪島塗の箸と椀が使われているそうです。

赤穂線の伊部の町をさまよいました。窯元が軒を連ねています。備前焼は古代窯でも特に古い歴史を持ちます。釉薬は使わず、炎と土との出会いを求めた窯変に生命をかけます。漆器に対して陶器は chinaware といわれているようですが、見事に日本の文化と結合して発展しています。3000 近い器を年二回、十日にわたって焼きつづけ、胡麻だれ、牡丹餅、緋襷など不思議な風合いを醸し出します。鉄分を含んだ茶碗は体にもよいと聞きますが、手にとった時の味わいは格別です。

このように日頃考えたことない生活の器が、こんなにも豊かな日本の伝統文化を語りかけてくれたのです。修学旅行は、学校教育における「人間力」の育成に欠かせない場面です。未知なる土地を訪れて、本物に触れ「質の高い感動」が得られます。本日の研究発表会もこの視点からの素晴らしい発表です。私どもに、多くの示唆を与えてくれるでしょう。

最後になりましたが、ご指導いただきます千葉県教育委員会教育振興部指導課指導主事大槻秀一先生に心から御礼申し上げます。

「ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅」

- 3年間を見通したキャリア教育を核として -

千葉市立みつわ台中学校 教諭 根本 晃 男
教諭 平野 正 春

はじめに

テーマについて

具体的な取り組み

1．1 学年修学旅行・・・東京下町の地場産業を中心とした職場体験

2．2 学年自然教室・・・高原千葉村でのスキー学習

2 学年特別活動・・・南東北の旅行企画を立てよう

3．3 学年修学旅行・・・山形での職業体験・人とのふれあいの旅

事前の活動

1 日目の活動

2 日目の活動

3 日目の活動

事後の活動

最後に・・・

まとめと今後の課題

1．実践の成果

2．今後の課題



はじめに

本校は今年30周年を迎える。学区は閑静な住宅街、大きな公営の団地、商店街などいろいろな環境が混在している。近くにはレッサーパンダの「風太くん」で一躍有名になった「千葉市動物公園」などもある。

開校当時は5学級のスタートで昭和63年には28学級1200人を越える生徒を抱えていた。その後生徒数は減少傾向にあり（本年度より若干増加傾向ではあるが）現在は特別支援教室を含む19学級である。学校教育目標は「心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成」で、個々の生徒・集団が活き活きと生活し、活力のある学校を目指している。

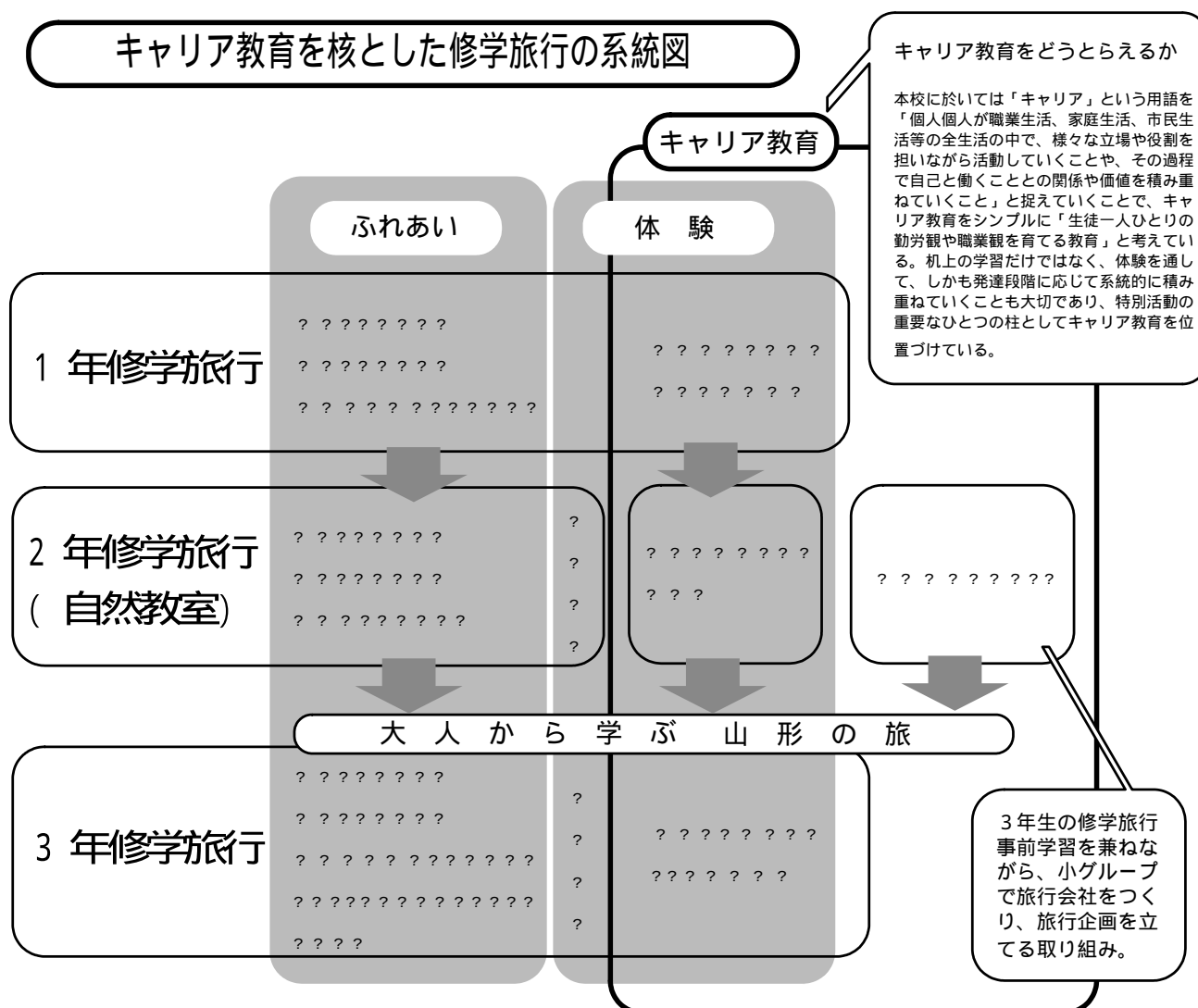


▲ 登 校 風 景

テーマについて

「ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅」 - 3年間を見通したキャリア教育を核として -

キャリア教育を核とした修学旅行の系統図



ふれあい

生徒相互、生徒と教師、生徒と回りにいる大人の人たち等、人とのふれあいを通して、私たちが忘れてはならない「人と人との関わりから生まれてくる温かい心」を育てていくことが、3年間の修学旅行の根底に流れている。

体 験

子どもの自然体験・社会体験の不足が指摘され、その解消が「生きる力」育成のために欠かせないことが中教書の答申でも指摘されている。

本市ではそうした実態に対応して、小・中学校における様々な体験学習を系統化し、各学年における修学旅行等を関連づけて実施することを求めている。また、その実施にあたっては、活動場所の検討や予算面で市教委各課の支援をいただき、市の事業として運営される行事も、小学校5・6年、中学校2年に用意されている。本校に於いても体験の場を修学旅行の中に組み込みながら「生きる力」の育成を図っていきたいと考えている。

大人から学ぶ山形の旅

日常の学校生活の中では、大人の人たちからの学びの場を設定していくことは教師側が与えていくという要素が強くなる。1年、2年での修学旅行の活動の中で自然な形で大人から学ぶ場を設定し、積み重ねていくことで、山形での3年生の修学旅行を、与えられる学びから、自ら求めていく学びへとしていけたらと考えている。

3年間を見通したキャリア教育

修学旅行においては、1年生では校外学習の半日を東京下町の地場産業を中心とした職場見学にあてた。ここでは東京下町の伝統文化を学ぶ場とし、2年では総合的な学習の時間と特別活動の時間を使って、みつわ台地区を中心とした身近な地域で5日間に渡って実施する職場体験への発展的な意識付けを図っている。また、特別活動や総合的な学習の時間を使って、「旅行企画を立てよう」という単元を設け、3年生の修学旅行事前学習を兼ねながら、小グループで旅行会社をつくり、旅行企画を立てる取り組みを実践した。

3年生では山形方面への2泊3日の修学旅行の1日をあて、第1次産業を中心（農業体験が中心）とした職場体験を修学旅行の中で展開し、幅広い知識の習得だけでなく、現地の方々との交流を図っている。このように本校では特別活動、総合的な学習の時間、旅行的行事をリンクさせながら3年間を見通して人とのふれあいや体験を重視したキャリア教育を実施している。

具体的な取り組み

1. 1 学年修学旅行

具体的には、まず公共交通機関の利用である。班行動、現地集合を基本とし、ラッシュアワーの電車に乗車することで、実際に職場見学に臨む前に、家族が毎日こうした混雑を経験していることをまず理解させた。一部の生徒が道に迷うことが危惧され、実際に地下鉄の出口を間違えるなどの事態もあったが、不安に耐え、自力で対策を講ずることも貴重な体験の一部である。いくつかの班は集合地点には集合できなかったものの、時間を見て判断し、配属先の事業所に直接赴くなどの対応をしていた。特別支援教室の生徒1名も参加したが、この生徒については学級担任が後ろから見守るなどの支援が必要である。また、学年職員のほか学校運営に支障をきださない範囲で最大限の教員（17年度は12名）を派遣し、生徒の掌握、安全確保の他、受け入れていただいた各事業所へのあいさつ等の対応にあたった。

見学先は吹きガラス・桐タンス制作・江戸切子ガラスなど、浅草を中心とした20の事業所にご協力いただいた。1事業所あたり5名から10名(1～2班)の生徒が訪問し、江戸の伝統を守る職人さんたちの熱意と技量に圧倒されていた。また、親切な対応に感動する生徒も多かった。

ここで課題となるものは受け入れていただく事業所の開拓である。現在、事業所を統括する組織がほとんど存在しないため、当初は何度も東京の下町に行き、時間をかけてお願いして回り、次年度以降の受け入れについても協力していただいた。

入学間もない生徒にとっては学級作りの場としても、

1組	山田クロース	浅草フーゴ	スー産	藤バッチ	高橋しもん	よしのい	のせ組	島次郎	間藤原
職業先	松徳硝子	モルテン	アシックス	鈴木木工所	長谷川商店	松根屋	久月	三浦屋	つば屋
集合場所	錦糸町駅	錦糸町駅	錦糸町駅	森下駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋駅	浅草橋駅
集合時間	8:50	8:35	8:50	8:40	8:50	8:50	8:50	8:40	8:40
職場到着時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
職場出発時間	9:45	10:00	10:00	10:00	9:45	9:45	9:45	10:00	9:45
学級集合場所	上野動物園西門								
到着時刻	10:30	10:45	10:45	10:40	10:30	10:30	10:30	10:45	10:25
出発時刻	14:00								
浅草着	14:30								

2組	グレートはら	中じーズ	トリービー	魚屋グループ	かま・造時計	キースリー	ブリッジおっち
職業先	梅鉢屋	モルテン	アシックス	鈴木木工所	サンショウ	(ウキ・レーズ)	ミカサ
集合場所	小村井駅	錦糸町駅	錦糸町駅	森下駅	森下駅	菊屋橋	上野駅
集合時間	8:50	8:35	8:50	8:40	8:30	8:40	8:50
職場到着時間	9:05	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:10
職場出発時間	9:50	10:00	10:00	10:00	10:00	9:50	10:10
学級集合場所	浅草雷門前						
到着時刻	10:40	10:40	10:40	10:40	10:50	10:30	10:40

3組	新島橋 中津江村	小笠原諸島	いがちゃん	おにぎり	吉田んご	えんどうまめ	みほん茶
職業先	宮田金屋	梅鉢屋	松徳硝子	豊田スグレ	久月	川崎商店	山下寛器
集合場所	堀切馬場	小村井駅	錦糸町駅	森下駅	浅草橋駅	菊屋橋	菊屋橋
集合時間	8:30	8:50	8:50	8:40	8:50	8:45	8:45
職場到着時間	9:00	9:05	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
職場出発時間	10:00	9:50	9:45	10:00	9:45	9:50	9:45
学級集合場所	浅草雷門前						
到着時刻	11:00	10:40	10:30	10:40	10:30	10:30	10:30

4組	のみや	マツモツチャン	青シーマン	つっちい	西山軍団	おぼはん	ナカアコ	のくち	マツヨロニ
職業先	アシックス	金久保健二	長谷川商店	松根屋	武蔵製作所	東京美研	田中漆器店	釜浅商店	石山製作所
集合場所	錦糸町駅	森下駅	浅草橋駅	浅草橋駅	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋
集合時間	8:50	8:40	8:50	8:50	8:30	8:45	8:40	8:40	8:45
職場到着時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
職場出発時間	10:00	10:00	9:45	9:45	9:45	9:45	9:45	9:50	9:45
学級集合場所	上野公園口								
到着時刻	10:45	10:40	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30
出発時刻	14:00								
浅草着	14:30								

5組	オランダ・浅草	木下Japan	小林サカニ	ヒラマツキ	村山んぼ	ハシモ	マドンナ	キネリー
職業先	宮田金屋	小林硝子	富次さん	東京美研	石山製鉄所	山下寛器	久月	ミカサ
集合場所	堀切馬場	住吉駅	森下駅	浅草橋駅	菊屋橋	菊屋橋	菊屋橋	上野駅
集合時間	8:30	8:20	8:40	8:45	8:45	8:45	8:50	8:30
職場到着時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:10
職場出発時間	10:00	11:20	10:00	9:45	9:45	9:45	9:45	10:10
学級集合場所	上野動物園西門							
到着時刻	11:50	12:00	10:40	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30
出発時刻	14:00							
浅草着	14:30							

する体験が生かされ、集合時刻に遅れる生徒は皆無である。これまでは修学旅行の無事な終了のみを期して、無難な計画を与えるだけであったが、「自力・主体」というキーワードは、次の行事に生きる反省を生徒たちに約束している。なお、最後のまとめとしていわゆるワークショップ形式での発表会を実施した。

▼職場先で説明を受ける生徒たち



▼最後にとったアンケートの文章

Q1. 今回の学習(修学旅行の職場訪問にともなう学習)で、ためになったことは何ですか?
 A1. 毎朝あのような通勤ラッシュの電車に乗って働きに行っているんだなと思うと、労働者の持ちがわかってよかった。それに何かしらの予期せぬハプニングにも対処できるような判断力もついたと思う。
 そして、こういうときに頼れるのは自分なんだと気付きました。また、いつまでも甘えていても……。小学生じゃなく自分で考えて動ける中学生なんだと、より強く痛感しました。
 A1. 将来どんな仕事に就き、どのように努力していくのかなど見学して実感してきました。世の中にはいろいろな仕事があるのだと、この進路学習を通してよくわかりました。
 A1. 自分たちだけで電車に乗ったりして、マナーや乗り換えの仕方など勉強になった。目上で知らない人に手紙を書いたのは初めてだったので、書き出しや終わりなど手紙の書き方も勉強になりました。

2. 2年生自然教室

第2学年では、千葉市の事業として、3泊4日の「自然教室」を実施している。群馬県北部に千葉市の施設「高原千葉村」があり、全中学校（56校）が交代で利用している。そのため、実施日程に制約を受けるが、5年先までのサイクルは確定しており、各学校が実施日に沿った計画を立案することとなる。

平成17年度は2月に配当され、スキー教室を基本としながら、各学級の主体性を発揮する場をいかに確保するかが課題であった。個々の生徒の意見の食い違いを克服しながら、学級のまとまりを確認する機会として活用した。

自然教室に関しては上記のように千葉市の事業として扱われているので、旅行的行事の中では唯一学校の特色を出しづらい行事であるが、自然の中での生活体験や人とのふれあいを大切にした企画を立てていったことや、中学校生活の中で初めての宿泊をとまなう旅行でもあるので、生徒たちにとっては思い出深い行事となっている。深々と雪が降る中、サプライズで教師が用意してきた打ち上げ花火を上げた時には、生徒たちが窓から大きな声で「先生ありがとう！」と声をそろえて言ってくれた。我々教師もじんと胸に熱いものが込み上げてきた。



▲スキー実習の一場面

日 程				
時 間	1日目 2/7(火)	2日目 2/8(水)	3日目 2/9(木)	4日目 2/10(金)
6:30		起床	起床	起床
7:00		朝の集い・清掃	朝の集い・清掃	朝の集い
7:30		朝食	朝食	朝食・大掃除
8:00	出発式			
8:30	出発			
9:00				
9:30		スキー学習開校式	スキー学習開始	
10:00		スキー学習開始		退村式
10:30				
11:00				
11:30	赤城高原SA		スキー学習開校式	
12:00		昼食(食堂)	昼食(食堂)	赤城高原SAにて昼食
12:30	高原千葉村到着			
13:00	昼食(食堂)		スキー返却	
13:30		スキー学習開始		
14:00	入村式(体育館)		コース別学習開始	
14:30	部屋点検・シーツ等配布			
15:00	スキー・靴合わせ			
15:30	足慣らし	スキー学習終了		
16:00			コース別学習終了	学校到着
16:30				解散式・解散
17:00	夕食準備	夕食準備	夕食準備	
17:30	夕食	夕食	夕食	
18:00		入浴	入浴	
18:30	入浴			
19:00			キャンドルサービス準備	
19:30		ナイトイベント準備	キャンドルサービス	
20:00	実行委員会議	ナイトイベント(打ち上げ花火)		
20:30	係別会議	雨天時(レク)	キャンドルサービス終了	
21:00	班会議	実行委員会議・係別会議	実行委員会議・係別会議	
21:30		係別会議・班会議	係別会議・班会議	
22:00	消灯	消灯	消灯	

▲3泊4日の日程

2 学年特別活動南東北の旅行企画を立てよう

この取り組みは、生徒たちに「南東北のどこに旅行に行きたいか？」という投げかけからスタートし自分たちのいきたいところの旅行企画を立てさせ、その旅行企画のプレゼンテーションをするという内容である。

まず始めに、各学級で2人から3人のグループで旅行会社を作らせ、自分たちの会社のイメージを強くアピールできるよう、会社のネーミングにも力を入れさせた。次に旅行をするという観点で南東北について調べさせてみた。そのために南東北の位置や南東北の3県の紹介や調べる観点を示唆する資料としての修学旅行だより（通称「だより」）を多数発行した。

さらに「だより」だけではなかなかイメージが湧かないのではと考え、約20カ所のにのぼる県市町

村の観光課や観光協会などを通して得た豊富な観光パンフレットを「みつわ観光 - 営業2課 - 」の1室や廊下に配置し、自由に閲覧できるようにしたり、本物の観光ポスターを掲示してより鮮烈なイメージを与えるよう工夫してみた。

また、生徒たちは日常の生活の中では自分が行きたい場所やいく必要のある場所は、ごく狭い範囲であり、ましてやそこに行くための交通機関を調べるといった経験はほとんど無いので、時刻表の見方を数学の授業の中に取り入れてみた。基本的な時刻表の見方から関数の応用として距離と料金の算出方法などを学習した。生徒たちはこの授業を通して、時刻表1冊で、ほとんどの交通機関が調べられ、宿泊場所まで出ていることを知ることができた。

企画書作成のための事前の学習は「これを食べたい」「これを観たい」「これをしてみたい」などの気持ちを喚起させ、「場所の決定」や「旅行目的」につなげる役割を担うことができた。

企画書の内容は具体的な行き先、何を目的とした旅行なのか、ツアーの名称、宿泊場所、行程表、交通費・宿泊費等を表示したツアー全体の料金など、本格的なものである。企画書の完成にあたり、各グループの課長（班の代表）は、部長（修学旅行担当教師）に企画書を提出し、さらに社長（学年主任）の判をもらう。

そして、最後の学習として各グループが企画した旅行のプレゼンテーションをクラスごとに発表会として行った。旅行会社の人に見てもらい、クラスで一番良い企画を選んでもらい、文化祭で、全校の前で発表した。



▲クラスごとの発表会

この取り組みはキャリア教育の一環として実施しながらも、直接3年の修学旅行に直結しており、修学旅行のスタートの取り組みとして位置づけている。自分たちが実際に行く、南東北について調べることで、1日目のクラス別コース選択のための下準備にもなっている。特に本年度の3年生に関しては、上記の自然教室が2月7日～2月10日で3年の修学旅行が5月の下旬であったため、自然教室とこの取り組みを並行して行った。

▼クラスで第1位になった企画書

旅 行 日 程 表

旅行名	季節	旅行会社名	担当者名
歴史巡りツアー ※2/8,9日の旅行日程を作ろう!!	春	種子島旅行	島津・矢野原・藤島
旅 行 行 程			
1日目	千葉 — 総武線快速 — 東京 — MAXやまびこ47号 — 仙台 8:24 9:07 9:24 11:28 屋食「むしゃくらーゼン」 仙台駅 — ルーブル仙台 — 瑞鳳殿前 13:00 13:15 ……瑞鳳殿……仙台市博物館……仙台北路……仙台北路前 13:20 14:30 14:40 15:50 16:00 17:10 17:22 ……ルーブル仙台 — 仙台……東横インホテル(白) 夕食「おでん三吉」 17:44		
2日目	ホテル……仙台 — 仙山線 — 東照宮駅……東照宮……東照宮駅 — 仙山線 — 北山……屋食「牛たん本舗」……北山五山 9:18 9:22 9:30 10:40 11:38 11:44 12:20 13:30 ……大崎八幡宮……国見 — 仙山線 — 仙台 — 送迎バス — 秋保リゾートホテル前……秋保リゾートホテル(白) 13:40 14:50 15:35 15:47 16:00 17:00		
3日目	ホテル……秋保リゾートホテル前 — 送迎バス — 仙台……フルキャスト……屋食「寿司勝」……仙台 10:00 11:00 11:20 12:30 仙台 — はやて16号 — 東京 — 総武線快速 — 千葉 14:24 16:08 16:44 17:25		

▼クラスで第1位になった企画書

旅行名	歴史巡りツアー	季節	春	旅行会社名	種子島旅行	担当者名	島津・矢篴原・藤島
※2日3日の旅行、一人分の金額を出そう!!							
A交通費(1人あたり)				28,490 円			
機関別	種別	利用区間	運賃・料金	備考	D見学・入場料(1人あたり)		
JR	運賃	千葉-仙台	6300円×2		地名	利用施設	見学料金
JR	特急料金	東京-仙台	7110円×2		仙台	瑞鳳殿	550円
バス	運賃	仙台-瑞鳳殿	600円×2		仙台	仙台市博物館	100円
JR	運賃	仙台-東照宮	140円				
JR	運賃	東照宮-北山	140円				
JR	運賃	国見-仙台	190円				
B宿泊費(1人あたり)				17,370 円			
宿泊地	宿泊施設	条件	料金	E諸経費(1人あたり)			
仙台	東横インホテル	シングル朝食のみ	5670円	項目	料金	項目	料金
仙台	秋保ホテル	トリプル朝夕有り	11700円	旅行保険	200円		
C弁当・食事代(1人あたり)				7560 円			
地名	利用施設	食事内容	料金	F旅行費用計 A+B+C+D+E			
仙台	むしゃくラーメン	ラーメン	700円	54,170 円			
仙台	おでん三吉	おでん	2500円				
仙台	生たん本舗	生タン定食	1360円				
仙台	寿司勝	寿司	3000円				

▼廊下に掲示した修学旅行だより



▲廊下に掲示した観光ポスター類

3. 3年生の修学旅行

本校では3年間の集大成として、東北新幹線を利用して山形方面への修学旅行を実施している。新幹線を利用するのは、修学旅行専用列車では、時間がかかりすぎる・日程に本校の企画が発揮しにくいこともあるからである。(高速道路網が完備した現在、より学校の計画を反映しやすいバスの利用も検討している。)3日間の行程は次の通りである。

事前の取り組み

「旅行企画を立てよう」・・・2年次の9月・10月(前述の内容のため省略)だより1～28号

クラスのペンションを決めよう・・・2年次11月15日～12月21日だより29～55号

修学旅行だよりでペンションを紹介

↓

下見で撮ったビデオをクラスごとに視聴し、学級（男女別）に第1希望から第3希望を決定

↓

修学旅行だよりで各クラスの希望順を発表し、クラスごとにそれを見て再度作戦会議

↓

ペンションドラフト会議（12/21）でペンション決定！

体育館で学級、男女別で正式に希望票に記入させ、複数の希望があったところはいくじを引く形で決定する。

ペンションへの手紙やオーナーへの質問・・・2年次1月18日～1月20日だより56～59号
内容は挨拶、自己紹介については全員。実行委員はそれ以外にクラス紹介、こんな修学旅行にしたいというメッセージ、オーナーへの質問（ペンションの使い方・部屋割りの仕方・風呂の使い方・オーナータイムの持ち方等）を書く。回収後生徒の写真を添えてペンションに送る。

折句を作ろう・・・2年次2月16日～2月27日便り60号・71号

実行委員会で「ふれあい」から連想されること、1年職場訪問、2年職場体験から感じたこと、3年の職場体験で学びたいことや将来の目標、どんな修学旅行にしたいかの4項目に対してでた言葉「コミュニケーション、あたたかさ」「責任感」「常識」「最高の思い出」をキーワードとして「ムツゴロウ」というテーマが決まった。ムツゴロウを使った折句を全員が作り、そこから修学旅行のスローガンを決めていった。

ム・・・ムキにならず、温かい心で、
ツ・・・強い責任感を感じ、
ゴ・・・コミュニケーションを取り合おう。
ロ・・・ロマンや常識を持ち合わせ、
ウ・・・うれしさいっぱいの最高の思い出を作ろう。

職場体験先を決めよう・・・2年次2月21日～2月22日だより61～71号

各クラスごとに2～3人のグループをつくり、ペンション決定のようにドラフトで決めた。

職場体験先に手紙を送ろう・・・3年次3月6日～3月10日だより72号

挨拶、自己紹介、将来の夢、体験にあったって等の内容で手紙を書き、生徒の写真を添えて各職場先に送った。

5クラスそのまま持ち上がりの予定であったが、少人数クラス編制で6クラスに編制することとなり、ペンションを決め直したり、再度手紙を送ったり、職場先の微調整などを4月スタートと同時にやってきた。・・・3年次4月5日～4月11日だより76～95号

1日1日のクラス別活動を考えよう・・・3年次4月5日～4月18日だより89・91号

学級で話し合い、方面具体的な行程、食事の場所等々、綿密に計画を立てた。

条件は 福島駅を10：30分に出発 ペンション村には17：00～18：00に到着できるように クラスで1台のバスで行動する

職場体験事前学習・・・3年次4月12日(2時間)だより89号
教室、コンピュータ室、図書室などを利用し、職場体験に関連することを調べて用紙にまとめた。

3日日目のグループ編制と行程表決定・・・3年次4月7日～4月12日だより89～92号

クラスのバス座席、列車の座席、集合について、持ち物、緊急の場合の連絡方法、各課飯の仕事、3日間の行程確認等々、確認や事前の指導をクラス、集会、だより等で行った。4月24日～5月23日だより96～112号

3 日 間 の 行 程 表

5月24日(水)	5月25日(木)	5月26日(金)
各自東京駅へ みつわ台を6:30には出発 7:45 東京駅集合完了 8:20 東京駅発 やまびこ45号 10:04 福島駅着 10:30 福島駅出発 クラス別活動 クラスでコースを計画 貸し切りバス6台 17:00～ペンション着 18:00 18:30 夕食 入浴・自由時間 20:15 オーナータイム 22:00 点呼 22:30 消灯	起床 7:00 朝食 7:45 山辺町職場体験出発 8:00 山寺職場体験出発 8:30 上山農業体験出発 上山旅館体験出発 職場体験 9:00～14:30 16:00 ペンション村到着 自由時間・入浴 キャンプファイヤー準備 18:00 夕食 19:00～ キャンプファイヤー 21:00 22:00 点呼 22:30消灯	起床身辺整理・部屋掃除 7:30 朝食 8:20 蔵王温泉行きバス 8:35 蔵王温泉行きバス 蔵王温泉街散策 11:20 ペンション村行きバス 11:35 ペンション村行きバス 12:00 昼食 ペンションで食べる 13:00 ペンション発 バス4台で分乗 13:40 上山温泉駅着 14:14 上山温泉駅発 つばさ118号 16:54 東京駅着 新幹線改札口付近で解散 各自自宅へ 18:30 みつわ台着予定

1 日目の活動

一日目は、1学年次の経験を生かした「東京駅集合」から始まる。修学旅行だよりで事前に情報は与えてはいるものの、各自が時刻表やインターネットで電車の時刻を調べ、個人で集合するが、遅れてくる生徒は皆無であった。

2年から3年に進級する際、いわゆる「持ち上がり」で、学級解体はしない方針であるが、事前の取り組みでも記述したように5学級から6学級に編制し直したため、前年度末からの計画は多くの部分で練り直しを迫られた。一日目は主眼を「学級作り」におき、学級ごとの計画による活動を行った。

ある学級は松島の見学に、別の学級は喜多方の町をゆったりと散策するなど、それぞれに学級の企画による「楽しむこと」を期待した。各学級1台のバスは、やはり融通が利いたが、「情報処理・予測判断・現実」とのギャップは当然発生し、企画することの難しさを実感したようである。

宿泊は蔵王のペンション村を借り上げた。各ペンションが近接し、条件にも大きな差はなかった。

▼1日目の学級別活動コース

	10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	ペンション着
1組 30名 田辺・高柳 添乗員	福島駅		伊達の牛タン 東インター店 1575円		松島遊覧船 14:00～ 980円	松島 15:00発	青葉城 16:00着	青葉城 17:00発	18:30
2組 29名 岡田・教頭	福島駅		リナワールド 12:30着 2500円	そば打ち体験 13:00～ 1300円	リナワールド 自由時間			リナワールド 17:15発	17:45
3組 30名 長島・西川 大森	福島駅		伊達の牛タン 宮城インター店 1575円	青葉城 13:00着	青葉城 14:00発	マリンゲート塩竈 15:00発 1000円	松島 16:30発		18:30
4組 30名 町田・平野	福島駅		喜多方 12:15着		喜多方 14:30発	小野川温泉 15:30着	小野川温泉 16:45発		18:15
5組 29名 花沢・校長 田中・添乗員	福島駅	駅弁購入 予約済み 花沢支払い		松島遊覧船 13:00～ 980円	松島 14:00発	勝山スケーティング クラブ 15:00 着 1050円		勝山スケーティング クラブ 17:15 発	18:45
6組 31名 根本・前田	福島駅	遠刈田温泉 エボシ溪流釣り堀 蔵王こけし館 銭湯	11:20着12:45発 1250円 1130円 200円		山辺玉虫湖畔荘 ジギスカン 13:45～ 1800円	いちごガーデン 15:00～ 1000円	チェリーランド 16:00着	チェリーランド 17:00発	18:00

2 日目の活動

二日目は上山を中心とする農業体験が中心である。農協から紹介していただいた農家に5～6名の班がお世話になった。果樹せん定、田植え、花卉定植の時期であり、各班ごとにそれぞれの仕事に従事した。果樹せん定では「ひと枝切り損なうと数百円の損害になる」という言葉に緊張したようである。（この様子は昨年山形新聞で紹介された）

田植えでは、機械が入らない田のスミや、わざわざ植え残してくださった部分に苗を植えていた。根の押さえが甘い子どもの「仕事」では、ちょっとした風にも苗が浮き上がってしまい、やり直しになるが、各農家の方々は親切に対応してくださった。

別の農家では、お盆に出荷するアスターの苗を定植していた。それぞれ真剣なまなざしで作業に取り組んでいたが、種まきから出荷まで、半年近い時間を要することを知り、千葉の子供たちには普段経験できない農家の苦労を、昨年の職場体験の経験と合わせて体得したようである。

こうした体験が、すぐに「生きる力」の育成に関係するとは考えにくい、ここで得た知識は「興味・関心」として根付くことが期待される。

子供たちには各農家の方々からいただいた心の温かさが、ジュースの甘さと共に印象に残ったようである。

その他、一部の生徒は農業以外の職種を体験した。土産物屋で販売にあたる者。旅館の清掃などに汗を流す者と、ここでも多くの方々のお世話になった。しかしいずれも一日だけの体験であり、時間的な制約からやむを得ないが、二年次の五日間の体験と比較して、どうしても表面的なものになってしまうことは残念である。

▼職場体験を受け入れてくれた場所・人数

上山JA	77	山寺土産屋等	41
1 個人農家	3	1 おのや	2
2 個人農家	4	2 辰美屋	2
3 個人農家	5	3 風雅の国	5
4 個人農家	3	4 えんどう	3
5 個人農家	3	5 対面石	2
6 個人農家	5	6 いずみや	2
7 個人農家	3	7 寺子屋本店	2
8 個人農家	3	8 美登屋	2
9 個人農家	3	9 常力坊	2
10 個人農家	3	10 山崎屋	2
11 個人農家	3	11 ふもとや本店	3
12 個人農家	3	12 まいどや	2
13 個人農家	3	13 商正堂	2
14 個人農家	3	14 風流堂	2
15 マウンテンファーム	30	15 与平衡窯	3
上山旅館	44	16 たていし	2
1 月岡ホテル	4	17 立石寺	3
2 ニュー村尾浪渡館	9	山辺農業	17
3 有馬館	3	1 個人農家	3
4 あづま屋	14	2 個人農家	3
5 橋本屋	6	3 個人農家	4
6 まるみ	6	4 個人農家	3
7 名月荘	2	5 個人農家	4



↑ 旅館の庭を掃除している



→ 上段

旅館でスリッパを拭いている

→ 中段

農場で牛の説明を受けている

→ 下段

農家で昼のひととき

← 畑で雑草を抜いている



農業（果樹園）：農業の中でも「花卉」という花をきれいに育てて売するための仕事を手伝わせてもらった。花の余分なところを切って手入れするのが
なと思っていたことは結構当たっていた。花の植え替えをして1本1本がしっかりときれいに育つようにしていたのが考えているなあと考えた。

お土産屋さん：モロコシを袋に詰めてシールを貼ったりラッピングした。おまんじゅうやさんと聞いていたので実際におまんじゅうを作ると思ってい
て緊張していた。自営業は自分で作ったものを自分で売る喜びがあるんだと思った。

農業（田植え）：大変だった。農業はずっと外にいるから暑くて日光ばっばん！田植えはヌルヌルしてドロドロで最初は気持ち悪かった。でも慣れて
きたらドロドロの感じが幼稚園に戻ったようで懐かしかった。田植えは腰がいたくなりつらかったが鈴木章さんは駄洒落が好きで楽しかった。

旅館：部屋掃除があんなに大変だと思わなかった。掃除をしている人は年配の女の人だった。ずーっと掃除を続けたあと、炭酸ジュースを飲んで「こ
れが良いの！」といった時のおばさんたちの充実した顔が素敵だった。

牧場：牛の乳搾りや餌やりなどをした。乳搾りはあまりうまくできなかったが、餌やりではすごく食べさせてやった。その時の牛の舌がやばかった。
舌を食べるのは少し嫌になった・・・。

2日目の夜は「ふれあい」をテーマにペンションのオーナーさんや市役所の方々を招き、キャンプ
ファイヤーを実施した。親睦の火の部分ではオーナーさんたちも交えてフォークダンスを楽しんだ。
また、6月実施の体育祭で3年生が踊る「みっ中ソーラン」を早めに練習し、感謝の意味で披露させ
ていただいた。オーナーさんたちも歌をプレゼントしてくれるなど交流を図ることができた。

3日目の活動

三日目の現地行動は半日だけであるが、学年集団意識の向上に重点を置いた。蔵王温泉街を小グル
ープにわかれ、学年全体で散策や買い物を楽しんだ。一日目のクラス単位の行動、二日目の班別体
験、そして最終日の学年行動と、それぞれの目的を明確にした、充実した修学旅行になった。

事後の学習

修学旅行を振り返って

いろいろな項目をもうけたアンケート形式で、今回の活動を振り返らせた。

起業家になろう

自分だったら山形でこんな作物を作ってこのように販売してみたい、山形の特徴を活かした新しい
おみやげのメニューを開発してみよう、自分が旅館の経営者になったら山形の特徴をどうやって出す
だろうかなど、それぞれが体験してきたことをもとにして、いろいろなアイデアを出させてみた。

最後に・・・

行事を終えて、新聞作りなどで修学旅行を振り返り、発表する場を設けることは多いが、去年はさ
らに一步すすめて、お世話になった上山農協との連携の方法を考えた。具体的には、11月に本校で
実施するPTA主催のバザーに、上山町の特産品である洋なしとお米を送っていただき、上山を紹介し
ながら販売することである。相互に連絡を取り合いながら、主として旅行を担当した生徒達が販売に
あたった。洋なしは即座に完売し、お米は「私たちが植えたものかも知れない」ということで、熱心
な売り子に変身し、これも完売した。そうした子供たちの変身は、修学旅行という体験にねざしたも
のであり、「現地でお世話になった」という心からの感謝の気持ちが表れたものであることは言うま
でもない。これは受動的な修学旅行から一步進め、「自力・主体」の活動を通して、自ら学び取つた
ものである。

後日、山形に行く機会があったが、新幹線の駅売店に置かれた「かみのやま」と書かれた段ボールに心引かれ、洋なしを購入した。

未来を生きる子供たちにとっても「かみのやま」という文字には同じような思いをおぼえることと思う。そして、その思いは一地方を示す固有名詞ではなく、その地域を構成する方々への感謝の思いである。

また、この感謝の思いはこれからの子供たち一人一人の生き方にも反映・発展するものであることを信じ、一緒に活動をともした学年職員、農繁期にもかかわらず、子供たちを受け入れていただいた関係諸氏に心からの感謝の気持ちをおくりたい。

まとめと今後の課題

1．実践の成果

本校は数年前までいわゆる荒れた学校であった。気を抜けばいつでもその当時の状況に逆戻りしてしまうような環境的な問題は現在も抱えている。しかし、目的や目標を明確にして綿密に計画し、実践を行い、実践に対する評価や反省をきちんと行い、次につなげていくという至極当たり前のことをひとつひとつ丁寧に行っていくことで落ち着いた学校に戻ってきていると考えている。そして、3年間を見通した修学旅行の取り組みは、単に修学旅行という枠だけでなく、学年・学校作りの一つの大きな要因であったのではないかと考えている。

抽象的で泥臭い大雑把な実践の成果になってしまうかもしれないが、この修学旅行のテーマのひとつひとつを心に刻みながら実践していく過程で、子供たちの変貌は十分実感できたという思いがある。

いついかなる場面でも生徒と教師のふれあいを大切にし、教師の思いを伝えながら取り組みを進めていく中で、全員が一つの方向に向けて頑張るという姿勢が着実に育ってきており、それは他の行事にも反映している。例えば修学旅行直後に行われた体育祭では、子供たちが自発的に動き、みっ中ソーランの集合時には学年全員が大きな一つの輪になり、ソーランの成功を祈って、かけ声をかけあう場面もみられた。

また、子供たちが行ってきたひとつひとつの取り組みに対して、事後の感想をみると、体験を重視した取り組みに対しては、教師側が予想したこと以上のことを感じ取り、身につけることができたことがわかり、3年間をトータルした修学旅行の取り組みは、教師にとっても、子供たちにとっても大きな手応えとなっている。

2．今後の課題

今後の課題に関しては、職場体験の受け入れ先の確保が大きいと考える。

一つは1年次の東京下町の地場産業の職場見学で、職人さんたちの高齢化や跡継ぎがいらないことなどから今年は受け入れてもらったが、来年度は確実に受け入れてもらえるという確証がないということである。教師が足と時間を使って開拓せざるをえない現状を何とか改善できないだろうかということここ数年考える次第である。

二つ目は、3年次の修学旅行先の山形では、JA や市役所等公の機関やペンションのオーナーさんたちとの意思の疎通である。もちろん旅行業者の担当の人も含め、心を通わせながら、こちらの考えをいかに理解してもらい、相互で努力しながらやっていくということが大切であるが、いつ誰が担当しても実現できる修学旅行であるための条件作りが今後の大きな課題であると考えている。

日本文化探究をととした生徒の向上

流山市立南部中学校 教諭 村山義則

はじめに

テーマ設定について

- ・ テーマ
- ・ 仮説
- ・ 仮説により表れると考えられる具体的な生徒の姿
- ・ 仮説へのアプローチの方法

実践

日本文化探究の3年間の取り組み

修学旅行における体験を通した日本文化探究

決意の場として捉えた修学旅行の取り組み

成果と課題

- ・ 学校のアンケートから
- ・ 修学旅行後の生徒へのアンケートから
- ・ 今後の課題

補足 資料1 誓いのシナリオ
資料2 生徒の個人新聞より

．はじめに

本校は、千葉県北西部に位置する流山市にある。流山市は江戸川の水運を用いて発展した地域であり、小林一茶の逗留や新撰組近藤勇と土方歳三の別れの地などとして歴史の上で顔を出している。秋葉原と筑波を結ぶ「つくばエクスプレス」が昨年 8 月に開通し、本市でも 3 つの駅が開設され急速な開発が行われている。本校から約 1 k m 離れた所にも流山セントラルパーク駅が置かれ、その周囲で宅地化がすすみ、今後更に生徒数の増加や環境の変化が予想される。

市内には 8 つの中学校があり、その中で本校は最も古い学校である。生徒は流山小学校と流山北小学校の 2 校より大半が入学してくる。現在の生徒数は 6 9 4 名、1 9 学級（うちわかくさ学級 1 を含む）で近隣では規模の大きい学校に属する。

本校では体育館背面に貼られた「伝統の上に新たな伝統を作ろう」というスローガンの元、3 年生が中心となり色々な活動を行っている。在校生による新入学の迎え入れ準備、入学後の新入生指導と工夫を凝らした発表を行う新入生歓迎会、学級ナンバーの 6 色対抗で行われる体育祭、美しい声が響きわたる合唱祭などさまざまな行事がある。また、ベランダでの朝顔の栽培やジャガイモの植え付け、七夕や豆まき、学級の時間を使ったシスターレクなど生徒にとって四季や仲間と触れ合うことができる場所である。



現在、本校で積極的に行っている活動は「地域との連携」と「ボランティア活動」である。

「地域との連携」では、全ての活動の基本となる挨拶を核に、体育祭の敬老招待・卒業前の 3 年生の公共施設及び地域の清掃・各行事の積極的な公開などを行い、来校者や近隣の方から高い評価を受けている。そして、このような活動の延長として、小学校の運動会の後片づけを見学に来ていた本校生徒が協力したり、大雨で詰まった下水のゴミを取り除くといった姿が見られるようになっている。さらに、一昨年から小学校に行きミニ先生としての活動を行うことで、地域の一員としての自覚と貢献について学んでいる。この活動は小中の連携として小学校から喜ばれており、昨年は新聞にも紹介されている。

ボランティア活動では、収益金を社会に還元していこう毎週アルミ缶の回収を行っている。活動初期は、車いすを購入し、福祉協議会へ寄付を行っていたが、現在は継続的な支援という考えのもとフォスタープランへの参加という形に変えている。このような活動の結果、社会への貢献という考え方が生徒に浸透し、一昨年の中越地震及び昨年のパキスタン地震への対応という形で表れた。両地震では、いち早く校内の募金活動を行った後に、生徒の発案で駅前での街頭募金を行った。集められた募金は災害地に寄付して終わりということではなく、自分達が被災者だったらという生徒の考えで使われた。中越地震では寒冷地という状況を考え、被災地にフリースと簡易カイロを贈った他、被害の大きかった3つの小中学校の生徒の心が安まるよう多数の本を贈くっている。この本は先方の学校の生徒に大変喜ばれ、南部中文庫として大切に扱われている。また、昨年のパキスタン地震では生徒自らがパキスタン大使館に行き、同じ年頃の子供が安心して学びを再開できるように使って欲しいと駐日大使に願いを伝え、手紙と共に募金を渡してきている。これらの活動は生徒会及び学級委員の集まりである学年委員会を中心に生徒達の手で行われており、南部中の新たな伝統として育ちつつある。



アルミ缶回収の行う生徒



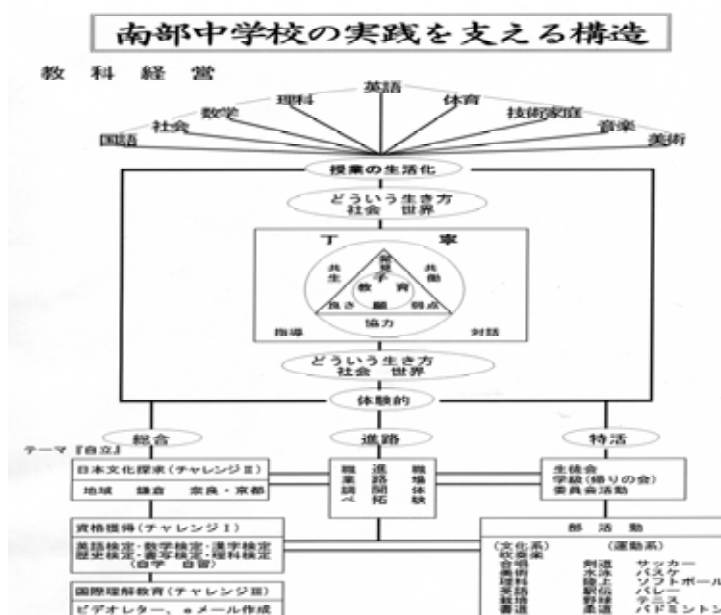
パキスタン大使に募金を渡す生徒会長と生徒会役員

・テーマ設定について

本発表のテーマは「日本文化探究をとおした生徒の向上」である。本校では「挑戦」という言葉をキーワードとして、右の構造図の考え方を教育の基盤とし、授業・特別活動等を行っている。

特に昨年度より、学びの構えという点を重視し、不学の友を許さない仲間関係、挙手・返事・起立・発表の姿勢を大切に授業のスタイルに全職員が取り組み、好循環を作りつつある。

総合的な学習については平成13年より「生き方学習」と位置づけ、チャレンジ、として次のような内容で取り組んでいる。



構造図

流山市立南部中学校の総合的な学習の時間の狙いと内容

チャレンジ	学習の仕方の習得するとして検定の学習を行う 具体的には、週1回の総合的な時間及び朝自習の時間に設定した「みどりタイム」を活用し、資格取得の学習を行う。
チャレンジ	日本文化探究を通し、先人達の願いや英知に触れる 具体的には、3年間で1つの流れとして、1年生で自分たちの地域の日本文化探究から始まり、3年の奈良・京都と体験を中心とした江戸文化の探究まで総合的な時間を用いて計画的に行う。
チャレンジ	国際理解を主に異文化の視点から見た日本について学ぶ 具体的には、文通や国際交流による異文化体験を行う。

チャレンジは資格取得の学習を通じた学習の仕方、チャレンジは3年間の日本文化探究の学習を通じた日本人としての生き方学習、チャレンジは国際理解の学習としている。

チャレンジの取り組みの成果として、毎年、英語検定・漢字検定・数学検定の受検者ののべ人数が全校生徒数を上回り、多くの生徒が資格を取得した後に本校を卒業していくことがあげられる。資格の内容についても、各検定の準2級の資格取得者の合計が2桁の人数を越えていることや現3年生の中で数学検定成績優秀者となり、現在数学検定準1級にチャレンジしている生徒が出ていることから考えてかなり充実した状態になっていると言える。特に、今回数学検定準1級にチャレンジしている生徒は、本校のチャレンジの時間を活用し、中学1年の3月の4級取得をスタートに現在に至っている。このような生徒を更に増やせるようさらに頑張りたいと考えている。

本発表の中心である修学旅行は、チャレンジ の日本文化探究の総まとめ及び特別活動に位置している。このチャレンジ は、3年間で1つの流れとしてとらえ、右の構造図2の考え方の元、各学年で次のように行っている。

中学1年

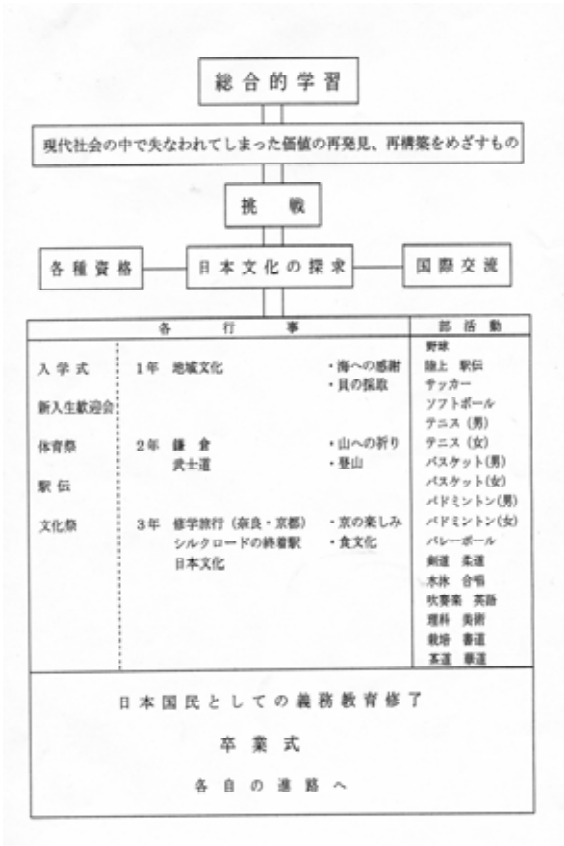
地域（流山市及びその近隣）を中心に博物館・神社仏閣等を利用し、地域に現存する日本文化（主として江戸時代）に触れ、その活動を通して、テーマ設定の方法と調べ方を学ぶ。

中学2年

近隣から地域を広げると共にテーマに沿った見学場所の設定を学び、3年の修学旅行につなげる。平成10年から15年までは地域を都内に設定していたが、16年より鎌倉に変更した。

中学3年

日本文化探究の総まとめとして、京都・奈良を訪れる。また、修学旅行後に発展として体験活動を行う。



構造図

今回、修学旅行は日本文化探究のまとめとなるが、ここでいう「まとめ」とは、学習テーマを作り、自分で調べたことを適切に発表できるようになるというだけではなく、日本文化を学ぶことで自分たちの文化の良さを知り、そこに込められた願いや英知に触れることと学んだことを自分の今の生活に活かしていくことを、ねらいとしている。さらに、日本文化探究の学習を通じて仲間と共に歩んできた活動の中で感じた様々なことを今後につなげていくことと考えている。

そして、このようなまとめを行えば、生徒達に変容が生じ、生活が向上していくと考え、本テーマを設定し、次のような仮説及び仮説からの具体的生徒像及び仮説への具体的手法を考えた。

テーマ 「日本文化探究をとおした生徒の向上」

仮説 「日本文化を学ぶことで自分たちの文化の良さを知り、そこに込められた願いや英知に触れる。また、日本文化探究の学習を通じて仲間と共に活動したことを活かせば、生徒達の生活に変容が生じ、向上がみられるだろう」

仮説によって表れると考えられる具体的な生徒の姿

「日本文化を学ぶこと（まとめとして修学旅行）を通して、仲間との信頼関係を築くことができる」

「修学旅行での誓いを通して、集団に対する帰属意識が高まり、挨拶や校歌に対してより一層頑張るようになる」

仮説へのアプローチの方法

修学旅行を最終のまとめとして、３年間の流れを持って取り組むことで、修学旅行までに日本文化についての学習の意識を高めさせる。

修学旅行で、先人が残した素晴らしい文化に触れ（体験）させ、今の自分達を振り替えさせる。

修学旅行の中に、学年が一体感を持てる場を設定し、生徒達に主体的に取り組ませ、自分たちの誓いを立てさせる。

．実践

日本文化探究の３年間の取り組み

本校では、平成１３年より中学１年で地域の博物館・資料館を利用し、地域の日本文化について学ぶことを行ってきた。そして、この活動を通してテーマの設定と調べ学習の仕方について学習した。

この取り組みにより、テーマの設定と調べ学習の仕方についての力を生徒に付けることができたが、利用してきた施設が京都・奈良への探究につなげにくいという課題が明らかになり、次のような改善を行った。

日本文化に学ぶという観点を特に意識した全体の授業を入れる

博物館を中心に行われていた見学場所に、地域の文化遺産である神社仏閣等を加えていく

については「文化を知る」という時間を総合的な学習の時間に設定し、学年全員が神社のしめ縄の意味と学校近辺の神社の歴史について学んだ。これにより、日常の何気ない中に潜んでいる先人の知恵やねらいについて生徒が学ぶことができた。その結果、自分の身の回りの文化に目を向ける生徒が現れ、の改善も同時に行われ、利用施設についても次のような変化が表れた。

平成１３年の利用施設

流山市	流山市立博物館
松戸市	松戸市立博物館 戸定歴史博物館
我孫子市	鳥の博物館 水の館
野田市	野田市興風博物館

平成 16 年の利用施設

流山市	流山市立博物館	一茶記念館
松戸市	松戸市立博物館	戸定歴史博物館 本土寺 新松戸郷土資料館
	松龍寺 - 西蓮寺 - 善照寺	野菊の墓 - 矢切の渡し
我孫子市	鳥の博物館	水の館 我孫子市役所 - 子の神大黒天
野田市	野田市興風博物館	もの知り醤油館 食文化センタ -

このような利用施設の変化は、テーマについても次のような違いを生んでいる。

平成 13 年の日本文化探究で生徒から出されたテーマ

- ・昔の人々と今の人々の日常生活の違い（松戸市立博物館を利用）
- ・手賀沼の水が生活用水にもたらしている影響（水の館を利用）
- ・手賀沼はなぜ汚いのか ・水質汚染について
- ・我孫子市近隣の昔と今の鳥の種類の違い（鳥の博物館を利用）
- ・徳川昭武の生活について（戸定歴史博物館を利用）
- ・流山、野田の土器について（野田市興風博物館を利用）

平成 16 年度に新たに生徒から出されたテーマ

- ・本土寺は誰がなんのために建てたのか。松戸の地を選んだ理由は何か
- ・松戸の街道沿いに並ぶ寺について共通点を探る
- ・坂川の歴史と他の川との関わり
- ・松戸を高城氏が治めていた頃、流山にどのような影響があったか
- ・流山の特産物と近隣の特産物の共通点
- ・流山にはない我孫子の珍しい名前（子の神）の神社がそこにある理由は何か

また、中学 2 年での日本文化探究に置いても、次のような課題が明らかになった。

都内での活動で 2 年で見学、3 年で体験を中心という指導をしてきたが、テーマによっては 3 年の時の内容と重なることが出てきた。

都内の見学地（特に明治以後の文化）をもとにテーマ設定をする場合、奈良・京都の文化遺産を用いたテーマ設定の練習につながらないことがあった。

そこで、2 年生の日本文化探究についても改善を行い、見学地を昨年度から鎌倉へ変更した。これにより 2 年で鎌倉、3 年で体験を中心とした都内の日本文化と活動のねらいが明確化された。また、2 年の日本文化探究のテーマでも下記に記載したように、京都・奈良に通じる形へと変化が表れた。現 3 年生による鎌倉の日本文化探究後に感想を取ったところ、古都に関すること、歴史や武士道に関すること、修学旅行につながるが出ており、2 年生の活動の地域を都内から鎌倉に移したことがプラスの方向に働いていると考えられた。

鎌倉変更後に2年生から出されたテーマ例

- ・円覚寺の国宝とその時代背景について調べよう（2組美化班）
- ・鎌倉の町並みに何か工夫がないかを調べよう（1組福祉班）
- ・鶴岡八幡宮の歴史的な事件の場所について調べよう（5組美化班・5組福祉班）
- ・切り通しに行き、実際に見て工夫があるか調べよう（6組美化班）
- ・昔から残っているものは何か、残っている理由と共通点について調べよう（6組歌声班）
- ・鎌倉の寺と流山の寺の違いを見つけよう（6組福祉班）
- ・鎌倉五山のお守りの違いを調べよう（4組歌声班）
- ・大仏を建てたことによる影響について調べよう（4組福祉班）
- ・江ノ島電鉄の特徴について調べよう（3組歌声班）

修学旅行における体験を通した日本文化探究

本校では、日本文化探究として修学旅行で次のような様々な活動（体験）をしてきた。

平成11年・雅楽体験（～平成13年）

全国で初めて中学生として奈良で雅楽体験を行った。これは当時の鈴木校長先生の元で行われ、奈良での体験活動の先駆けとして奈良テレビのニュースで紹介された。

平成14年・学級の見学テーマに沿った宿泊（～平成16年）

各学級で自分たちの見学したいもの、体験したいものの意識を明確に持つよう、学級ごとに鞍馬・高雄・大原・嵐山から宿泊地を選ぶ分宿を行った。当初は1見学地に2学級を宿泊させていたが、最終的には1宿泊地1学級とした。学級の仲間とどのようなテーマで何を見学するかを考えさせる上で非常に有効であったが、一定の目的を達したと考えたことと安全面から、平成17年から学年で宿泊する形に戻している。

平成15年・興福寺での誓い（～平成16年）

生徒の決意表明の場として文化遺産として名高い興福寺を使用した。特に、平成15年は薪能を演じる日と重なり、薪能を鑑賞することができた。

平成17年・朝の読経体験（～現在）

平成17年から2年生で鎌倉へ日本文化探究の校外学習を行っているが、生徒達の考え方の中に「日本文化＝過去の遺産」という考え方があることがアンケートから分かった。そこで「日本文化＝受け継がれる伝統＝現代の我々が日々の中で大切にし、成長させていくもの」と考えさせるために、過去から現在まで行われており、現在も文化として残っている読経に触れさせることにした。これにより、生徒の意識を変えていくことを試みた。昨年、今年と西本願寺の読経を体験させたが、来年は最も古い灯明を伝える比叡山延暦寺の朝の読経体験を計画している。

「本物に触れさせる」という方針のもといろいろな文化体験を南部中では行ってきた。特に、平成11年からの雅楽体験は全国に先駆けたものであり、修学旅行の前後の音楽の授業とクロスさせることで生徒の心に強く残る体験となった。

また、先に述べたように生徒は日本文化を過去のものとして認識しがちである。そこで、日本文化を連続したものと捉えることをねらいとして、朝の読経体験を昨年度より行っている。

今年度の体験では次のような生徒の感想がでた。

- ・ 平安時代の人々も聞いていたことを今、自分が聞いているのはすごい不思議な気がした。
- ・ 昔から続いている所に、人々の願いの強さを感じた
- ・ あの場合お経を唱えている人は1つになっている感じがして日本人は凄いなと思った。古くからの良い文化の一つだと思う。
- ・ 正座でものすごく足がしびれて大変だったが、凄いなと感じた。
- ・ 詞の意味は全く理解できなかったが、人々が真剣に唱えている姿に何かずっしりとのしかかれるものがあった。
- ・ 心から何かを信じられるとあそこまで真剣になれることを知った。

決意の場として捉えた修学旅行の取り組み

夜の活動として、清水焼絵付けなどの制作活動・座禅又は講話・白拍子・蛍鑑賞・桃山城からの夜景・新京極での買い物などが上げられが、本校では、修学旅行を3年間の活動の集大成とし、旅行の夜に「誓い」を行ってきた。林間学園の思い出としてキャンプファイヤーを上げる生徒が多いが、それは、誓いやレクを通して仲間と共に過ごしたことが実感できるからである。そこで、修学旅行に置いても仲間と過ごした時間を強く意識させることができるならば、それは生徒の最高の思い出として残り、旅行後の生活に良い影響を与えるであろうという考えで行ってきた。

今回も、この考えを踏襲し行うことにしたが、発達段階を考え、2年時林間学園での「レクを通して仲間と楽しく過ごした」という部分を3年では「自分達の今までを振り返り、これからの自分達の成長を仲間と誓う充実した一瞬を創り上げる楽しさ」に変えることに重点を置いた。

具体的には次のことを意識して行った。

- ア．誓いの流れの計画や事前の練習では、生徒を主体的に活動させる。練習時間の設定は教師側が行うが、練習内容や最終的な練習計画については生徒が行う。
- イ．誓いを考えるときに、3年間で自分達は創り上げてきたものを振りかえらせ、言葉遊びにならないようにした。
- ウ．学年の決意を込めるものとして、夜の唄という曲を利用した。この唄は2番までの曲だが、学年の生徒全員から3番の歌詞を募集し、自分たちの決意を込めた歌詞を作り歌った。

このような指導の結果、生徒達が何を行うかが明確にされ、やらされているのではなく自分達がやっているのだという意識を持つことができた。その結果、生徒達は自分達の誓いに涙を流し、本能寺からの帰りのバスでは誰一人としてしゃべらない状況になった。修学旅行終了後の生徒の感想と本能

寺の誓いに対するアンケートについては、成果と課題で述べるが、この取り組みはその後の生活の向上と仲間作りに大きく関わることができたといえる。

．成果と課題

本校では、毎学期、学校生活に対する生徒の意識調査をアンケート形式で行っており、次の表が今年度の１学期に行った結果である。このことから生徒達は非常に学校に対して前向きな気持ちで取り組み、授業や部活動について意欲的に参加していることが伺われる。これは２でも述べたように、本校では構造図１の考え方を基盤とし、様々な活動に取り組んできた結果であり、３年間かけて取り組んできた日本文化探究もその一端を担っていると考えている。

学校生活は楽しいですか

	とても楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	全く楽しくない
１年	５１．７％	４０．５％	７．４％	０．９％
２年	４１．１％	３９．６％	１５．３％	４．０％
３年	４２．２％	３６．７％	１６．０％	５．１％
全校	４５．０％	１８．９％	１２．９％	３．３％

授業は充実していますか

	とても充実している	少し充実している	あまり充実していない	全く充実していない
１年	２７．４％	６１．４％	１０．７％	０．５％
２年	２７．４％	６１．４％	１０．７％	０．５％
３年	１９．９％	５５．７％	２０．３％	４．２％
全校	２４．９％	５９．５％	１４．０％	１．７％

部活動は充実していますか

	とても充実している	少し充実している	あまり充実していない	全く充実していない
１年	６２．３％	２９．３％	４．７％	３．７％
２年	５５．０％	２６．０％	１２．０％	７．０％
３年	５８．３％	２０．９％	１１．３％	９．６％
全校	５８．５％	２５．４％	９．３％	６．８％

学級は楽しいですか

	とても楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	全く楽しくない
１年	４５．８％	４０．７％	１０．７％	２．８％
２年	４０．４％	３７．９％	１４．３％	７．４％
３年	５１．９％	２８．７％	１４．３％	５．１％
全校	４６．０％	３５．８％	１３．１％	５．１％

3年生では、学校生活がとても楽しいと答えた生徒より学級が楽しいと答えた生徒の方が10%近く多い。この後の本能寺の誓いについてのアンケートを見てみると、本能寺の誓いが大きく影響していることは明らかである。

本能寺の誓いについて 5段階評価（調査数238名）

本能寺の誓いを体験してどのように感じたか

1. 本能寺の誓いで仲間と一緒にいることを素晴らしいと感じたか	平均 4.5
5 とても感じた（62%） 4 感じた（35%） 2 あまり感じなかった（3%） 1 感じなかった（0%）	
2. 誓いを体験して仲間と力を合わせて向上していけると感じたか	平均 4.4
5 とても感じた（54%） 4 感じた（42%） 2 あまり感じなかった（3%） 1 感じなかった（1%）	
3. 本能寺の誓いをやって良かったと思うか	平均 4.7
5 とても感じた（71%） 4 感じた（24%） 2 あまり感じなかった（4%） 1 感じなかった（0%）	

本能寺の誓いをもとに修学旅行後に諸活動に対して自分が学級にどのくらい頑張れると思うか

1. 体育祭や合唱祭などの行事	平均 4.5
5 とても頑張れる（61%） 4 頑張れる（35%） 2 厳しい（4%） 1 とても厳しい（0%）	
2. 受験でお互いを思いやること	平均 4.2
5 とても頑張れる（41%） 4 頑張れる（51%） 2 厳しい（6%） 1 とても厳しい（2%）	
3. 学年目標「日常の支え愛い」	平均 4.2
5 とても頑張れる（44%） 4 頑張れる（48%） 2 厳しい（8%） 1 とても厳しい（0%）	

修学旅行後に学年が日常生活で向上した点があると感じているか。感じているならどのような点が向上したと感じているか

向上した点があると感じた生徒 209人 / 238人（87.8%）

挨拶が良くなった	76人	（歌や行事の）団結力・協力性が高まった	102人
授業への集中が良くなった	21人	仲間との絆が強まった	19人
けじめが付くようになった	9人	掃除が良くなった	4人

このように、本能寺の誓いは生徒の心に強く残り、その後の生活に大きく影響を与えていることが上の結果より分析できる。特に、団結や協力性が高まり学級の歌や応援などみんなで活動することが向上したと感じている生徒が40%、挨拶が向上していると感じた生徒が30%にのぼっている。

これは先に述べた研究仮説「日本文化を学ぶこと（修学旅行）を通して、仲間との信頼関係を築くことができる」と「修学旅行での誓いを通して、集団に対する帰属意識が高まり、挨拶や校歌に対してより一層頑張るようになる」が表れたと判断できる。。

また、仲間関係に置いては、

部活復帰できた

と書いてきた生徒がいた点に注目したい。この生徒は2年生の後半から、仲間関係をきっかけに部活動への不適応が表れ不登校気味だったが、修学旅行への取り組みから徐々に回復し、夏の総体では部活動に帰ることができた。当初、5ヶ月間全く部活動に来なかったのに急に来ようになり理由が分からなかったが、この一文を観て、納得でき、改めて誓いの重さを感じさせられた。

今回、先に述べたように、練習から生徒が主体的に行ってきたことが成功の要因としてあげられるが、この他に次のことも成功の背景にあったと考えられる。

本校の修学旅行での誓いは伝統的に行われてきたものである。

今の3年が1年の時に、当時の3年から誓いを通して学年全員が一つの気持ちになれるという話を聞いており、自分たちも3年になったら同じ体験ができるのだという期待と目指す姿があったことから、気持ちが作りやすかった。

林間の誓いで良かったこと、悪かったこと、そして林間の誓いがその後に活かされてきたかを経験してきて、誓いという行為に対して気持ちが込めることができた。特に、林間で自分達の誓いをうまく表現できなかった学級が、うまく誓いを表現でき、その後の生活に活かしていた学級を観て、自分達も次はより良いものを作ろうとする気持ちになっていた。

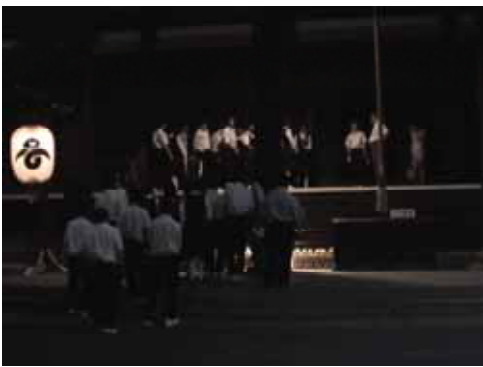
このように考えると、本校の「誓い」という活動は決して特殊なものではなく、どの学校でも行える活動なのではないかと考える。特に、林間で誓いを行ったがうまくいかなかった学年では、なぜうまくいかなかったか、どうすれば良いのかということを生徒に考えさせ、再挑戦の機会を与えることになり、リーダーの成長にも繋がるのではないと思う。しかし、誓いを行う際に、その基となる学校生活への安心や信頼感、下級生が手本となる上級生の活動があってこそ成功するものであると今回の活動を通して強く感じた。

< 今後の課題 >

今後の課題として、日本文化に対する生徒の意識を過去の遺物ではなく現在の自分達につなげていくものともっと強く捉えさせることである。本校では読経体験という手段を用いて取り組んでいるが、他のアプローチの方法もまだまだ考えていく必要がある。また、鎌倉の日本文化探究でこの点について更に取り組んでいく必要があると感じている。

最後に、修学旅行の活動そしてこの本能寺の誓いを行った後、強く感じたことは、教師自身が生徒に何を3年間訴えてきたのか、この3年間で何を創り上げてきたかを改めて振りかえさせられたことである。そして、この活動が我々にとって、その後の指導の指針に繋がるものになったということ、現在も続けていることを付け加えて終わりとしたい。

資料1 本能寺の誓い(シナリオ)

バスで移動	バスで移動中、バスの中で最終確認を行う。気持ちを高めておく
本堂の前 入場	 無言で整列・学級委員の指示は最低限で行い、一人一人の誓いを行うという気持ちで行動させる。 全クラス揃ったら1組から本堂へ 本堂の中は暗いので、事前に隊形を良く理解させておく 全員の入場後、学年委員の合図で進行を始める。 (入場様子)
ナレーション	「今、この場所でここに集う248人の仲間とともに目指す姿を誓い、この場所を僕達の生まれ変わる原点となるものにしよう。そして、これを機に仲間を支える素晴らしい学年・学級にするために、今、最初の一步を踏みだそう」
合唱	「With you smile」 合唱後、全員着座
分火	安江(生徒会長)が本尊から火をもらい平田(副会長)へ分火 安江と平田が1組の2人の学級委員に分火し、学級の誓いを行う。
学級の誓い 1組の誓い	3年1組起立 三年一組の誓い (全員) 確 (松本) 僕たちがこの学級目標を掲げて3ヶ月が過ぎた (大嶋) 3年1組は、団結力ならどこにも負けない (飯濱) さまざまな行事では常にいい記録を出していた (全員) だけど (坂入) その傍らには弱い自分たちがいた (高須) 楽しくなければリーダーに協力できない (岩崎) 自分たちでけじめがつけられない (土肥) 一つ一つ全力で取り組めない (石田) ルールが守れない (中本) このままでは、この学級目標が達成できない (天川) 良かったと言えるものが何も残らない (青木) このままで終わって (全員) いいはずがない (三木) だから、すべての活動に魂を込めて 誓いをリードする学級委員 (全員) 全力で行動しよう (庄司) そして、この修学旅行を成功させ (石塚) クラス全員が一つになるために (学級委員) 一人一人が変わる (全員) 修学旅行で変わる自分たちの姿 (鶴) この仲間と過ごせるのも後わずか (鈴木) 嫌な思い出は残したくない (宮島) だから僕たちは創る (全員) 最高の仲間
2組の誓い	1組学級委員より分火してもらおう。3年2組起立 三年二組の誓い (全員) ジグソーパズル 欠けたらできない絆のピース (山田) 私たちはこの学級目標を掲げ (小西) 自分たち一人一人のピースが強く結びつき (酒井) 誰一人欠けることなく (天農) 残り少ない中学校生活を送ろうと決めました (星) 今、学級では (橋下) 人の話を聞かない (JJ) 反応できない (佐藤) リーダーへの協力という意識が薄い (水島) このまま引きずってはいけない (橋下) この誓いから (全員) 変わる (阿部) 協力したい (谷川) いつも笑顔で (木村有) 団結して友情を深め (滝島) 支え合いたい (岡本) アルミ缶回収 (秋元) 8人しか持ってきてない (鶴澤) アルミ缶回収率が不安定だった (江藤) このままではいけない (後藤) そんな気持ちが皆を本気にさせた (志村) 歌声 (和田林) だらけていたパート練習 (石井) パートリーダーが話し合って工夫した練習を始めている (鈴木麻) 全員が綺麗に響く声 (武藤) こんな歌声を目指していきたい (清水) 1分前着席 (浅見) 決まった人が座れない (庄子) 移動教室に遅れてしまった (徳田) 生活委員と学級委員の粘り強い呼びかけ (松田) 全員が座れる回数が日に日に増えた (内山) 仲間をもっと信じていきたい (若松) これからもっと、大切にしていきたい (三浦) 今、私達は可能性の翼を広げ (北居) 光の差し込む方へ (全員) 向かうんだ



資料1 本能寺の誓い(シナリオ)

3組の誓い	2組学級委員より分火してもらう。3年3組起立 三年三組の誓い
	(水野) 灯 自分を見つめ支え愛い、一つの火のようになろう (畑村) この蠟燭のような1つの炎 (松崎) これはいったい何を示しているのか (笠川) 1年前の春。僕たちは2学年へと進級した (中里) たまたま出会った35人 (関口) この35人で過ごすたったの2年間 (高杉) このまま過ぎてしまっていていいのだろうか (荒木) 皆の事を信じ切ろう (拓実) 自分に自信を持とう (桑原) しっかり協力できる心を持とう (須藤) この本能寺に誓いを立てて (藤田) 平和を夢み仲間を信じた者たちがいた (飯田) 私達も大切だと思える仲間を創ろう (青山) 本当に信じ合える仲間になろう (恵子) この蠟燭の様な一つの炎となり (祐里) みんなで支え愛い (小嶋) 燃え続けていよう (塚田) この本能寺の集いが (西) 僕達の歴史の1ページなのだから (早見) 卒業まで9ヶ月 (加藤) あと9ヶ月しかない (恵良) 仲間と共に過ごせるわずかな時間を (小池) みんなで笑顔で過ごそう (秋本) 体育祭 (宮地) 合唱祭 (榛沢) 受験 (二口) 僕達にはいろいろなことが残っている (鈴木) しかし、それだけじゃない (三浦) 1日1日が行事なんだ (宮内) しっかり3年3組の記憶を (菅野) スケッチブックに記していこう (本田) 二度とない青春なのだから (拓実) 本気でぶつかろう (西本) 35人の色で1つの絵を完成させ (みちか) 永遠と心の中に残るスケッチブックに (全員) 記していこう
4, 5組中略	< 4, 5組中略 >
6組の誓い	5組学級委員より分火してもらう。3年6組起立 三年六組の誓い (森) 今まで (小谷) この3年6組で (滝口) 様々な行事の度に (菅生) 僕達は団結し (國崎) 笑顔と共にしてきた (高木) この仲間といると (武田) 自然と笑顔になれる (情野) この仲間といると (川下) 嫌なことなんか忘れてしまう (黒川) みんなの笑顔に (浅香) 何度助けられただろう (高山) ありがとう (藪内) ありがとう (全員) ベストフレンド (島田) だけど (荒川) そんな仲間との (高屋) 別れの時まで (横田) もう、そんなに時間がないんだ (上西) だからこそ誓う(上水) 残された時間を使って (今野) 最高のクラスとなるために (森) 今持っている良さを更に伸ばそう (金子) もっと明るいクラスへ (木下) みんながもっと笑える輪を創ろう (板倉) もっと楽しいクラスへ (武本) 決して忘れない思い出を創ろう (渡辺) もっとにぎやかなクラスへ (富樫) 微笑みの絶えない雰囲気創ろう (藤田) もっと仲が良いクラスへ (安江) クラスの枠を越える信頼関係 (全員) そして更なる団結力を (河野) これから先 (滝川) 受験という大きな壁が (中島) 俺達の行く手を阻むことだろう (平井) 挫折する仲間がいるかもしれない (藤田) 自分のことしか見えなくなるかもしれない (横田) でも (金子) 今日の誓いがある限り (水野) もっと強くなれる (原田) 仲間と支え合っていける (相澤) 全員で登り切れる (生田) 団結し、走り抜いて見せる (原) それが3年6組 (全員) 村山学級だ
7組中略 学年の誓い	7組(中略)の学級の誓いの後、全体が起立する。 (全員) 仲間 (武田) それはかけがえのない大切なもの (野島) 共に笑い (松田周) 共に悲しんだ (溝渕) だけど (西島) ふとしたときの自覚のなさが仲間を傷つけてはいないだろうか (大嶋) 相手より自分ことを一番に考えていた (内山) 自分の楽しさだけに走っていた (深澤) 困っている仲間に気づいてあげられなかった (真下) リーダーの辛さをリーダーが一番知っているはずなのに



資料1 本能寺の誓い（シナリオ）

	（三木）他のリーダーの辛さに気づいてあげられなかった （松田大）このままで良いはずがない （全員）変わるんだ （秋本）一人一人の意識を変えるために （鈴木）今、自分たちを見つめ直そう （横田）俺達は3年生なんだ （天川）心から動けるアルミ缶回収 （千葉）心を磨く清掃 （大原）心のこもった挨拶 （石井）心に響く歌声 （相澤）そして、心から仲間を （全員）理解し合おう （高屋）この仲間と共に （石田）5つの心を胸に刻もう （黒川）私達の学年目標は （全員）自覚 己を知り、更なる高みへ （藤田）大切なのは変わるのではなく （小野）変わろうと努力することだ （北居）けれど、簡単なことじゃない （斉藤）でも私達には信頼し合える仲間がいる （岡田）どんな壁でも乗り越えられる （小谷）何も怖くない （三浦）みんな独りじゃないから （井上）みんなと過ごす時間を大切にしよう （渡邊）前だけを見て、最初の一步を踏みだそう （穴戸）弱点を改め （高橋）この南部中を独り一人一人が支えていこう（平田）みんなから頼られる存在 （高杉）最高3年生となるために （若松）先輩が築き上げた伝統の上に （水野）僕達の色で築いた伝統を （全員）創り上げよう
合唱	夜の歌 自分たちの決意を込めた歌詞を作り、 3番として歌う。
火を消す	全体着席
住職さんの話 校長先生の話	
お礼の言葉	水野君（修学旅行実行委員長）
退場	

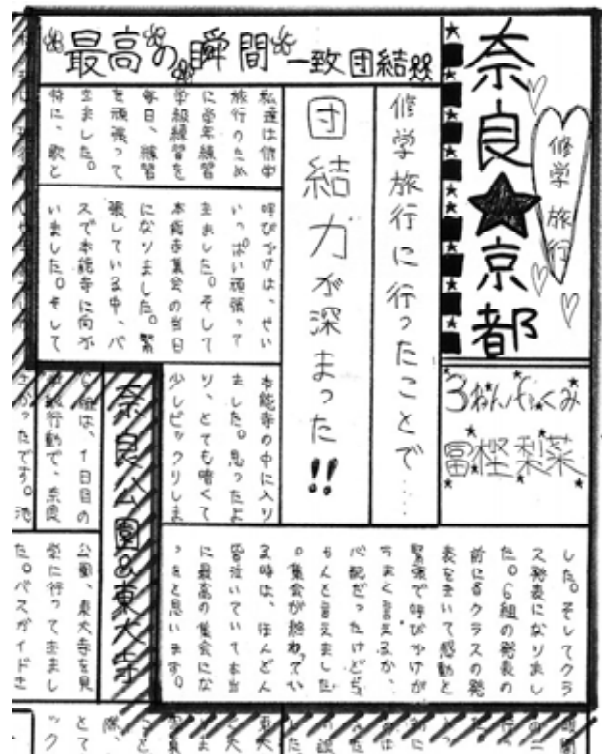


「夜の歌」を歌う生徒

資料2 本能寺の誓いを終えて・・・生徒の個人新聞より

修学旅行後に、個人新聞を作ったが、8割の生徒が1番記事に「本能寺の誓い」を上げていた。

多かった言葉は、涙・感動・団結力・あの感動を忘れない等であった。どの生徒も、あの瞬間について本当に真剣に受け止めていたことが感じられた。



[illegible]

指導講評

千葉県教育委員会教育振興部指導課 指導主事 大槻 秀一 先生

[illegible]

関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和41年以来、次の研究発表会を実施した。（敬称略）

回	年度	発表者 県・学校名	講師	研究内容・講演内容
1	昭和41	増淵 増雄	栃木・泉が丘中	・修学旅行のカリキュラムについて
		吉沢偏之助	千葉・柏中	・修学旅行の安全対策
2	42	高畠 栄治	茨城・赤塚中	・修学旅行における事故の発生と対策
		根岸 幸治	群馬・昭和東中	・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	宮本 常一	武蔵野美術大	講演「日本の宿の変遷と修学旅行」
		荒幡 義輔	埼玉・本太中	・修学旅行の問題点の教育的思考
		小沼 常治	東京桜町高校	講演「修学旅行における見学指導の在り方」
		君島 光夫	栃木・南犬飼中	・栃木県における修学旅行の実態
4	44	小泉 義	茨城・水戸五中	・安全実施のための運営と問題点
		高田 福松	埼玉・幸手中	・今後の修学旅行の在り方
		君島 光夫	栃木・南犬飼中	・生徒の手による修学旅行
		本間 康一	千葉・川間中	・特別活動としての学校管理上の問題点
5	45	現地研修会（京都）		
6	46	宮本 常一	武蔵野美術大	講演「修学旅行における望ましい観光の在り方」
		人見 芳正	栃木・篝根中	・小、中、高の関連の中で
		塩入安三郎	栃木・鹿沼西中	・わかくさ号で行こうとしたのに
		兵頭 ヤス	栃木・田沼東中	・新幹線を利用して
7	47	樋口 清之	国学院大	講演「歴史の真実」
		高橋 武司	千葉・柏中	・より効果的な修学旅行について
		高田 福松	埼玉・幸手中	・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	佐藤 政次	茨城土浦日大高	講演「歴史と暦」
		高田 福松	埼玉・幸手中	・修学旅行の意義と目的
9	49	樋口 清之	国学院大	講演「旅と情報伝達—忍者の正体」
		菊地昌一郎	埼玉・加須北中	・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	萩原 進	群馬郷土史家	講演「群馬の風土と人」
		谷 正久	群馬・古巻中	・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂 重光	茨城・古河二中	・本校における修学旅行の企画運営
		糸川 妙子	栃木・藤岡二中	・我が校の修学旅行の理論と実際 - 自主の気風を目指して -
12	52	坂田 次雄	千葉・松戸三中	・修学旅行における道徳教育の実践
13	53	吉田 貫	茨城・水戸二中	・充実した修学旅行を目指して
		潮池 ルミ	埼玉・蕨東中	・修学旅行における観察学習を効果的にするために - しおり作成と活用 -
14	54	生方実太郎	群馬・多那中	・集合教育を取り入れた修学旅行 - 生徒の主體的な取り組み -
		阿部 茂	群馬・新治中	・有意義な修学旅行にするために - 新幹線における車窓教育 -
15	55	苅部 正夫	栃木・久下田中	・有意義な修学旅行にするために - 奈良公園におけるグループ別活動 -
16	56	天田 和之	埼玉・岡部中	・東北修学旅行を実施して
		平田 幸平	埼玉・日進中	・総力を挙げての修学旅行の運営 - 大宮市立中学校長会 -
17	57	鈴木 勝	千葉・松戸四中	・東北へ修学旅行を実施して - 生徒のアンケートをもとに -
		小川 辰雄	千葉・吾妻中	・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野 久	茨城・永山中	・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて
		青木 英	茨城・見川中	・生徒を生かし育てる修学旅行を目指して
19	59	高橋 哲夫	文部省教科調査官	講演「修学旅行の今日的課題」
		福原 昭	群馬・中之条四中	・本郡修学旅行の現状と課題
		福本長治平	群馬・富士見中	・よりよい修学旅行の在り方を求めて

回	年度	発表者 県・学校名 講師	研究内容・講演内容
20	60	高橋 哲夫 文部省教科調査官 滝田 潔 栃木・横川中	講演 「自己教育力を育てる修学旅行」 ・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本 三郎 栃木・壬生中 片山 悦男 栃木・宝木中	・本県修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎 千葉・南行徳中 村田小夜子 千葉・大洲中	・みちのくの修学旅行 ・修学旅行を省みて
23	62	小日向勝美 埼玉・朝霞四中 川上 次雄 埼玉・大宮第二東中	・洛中班自由行動による見学活動 ・自由性を生かした修学旅行
24	63	高橋 哲夫 文部省教科調査官 宮本千代子 茨城・土浦第六中 川上 徹 茨城・日立豊浦中 須藤 和彦 茨城・下館中	講演 「学習指導要領改訂の方向について」 ・生徒自身の生徒の手による修学旅行 ・お互いを高め合うグループ別見学学習 ・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行
25	平成 元	<群馬県厚生年金会館> 高橋 哲夫 文部省教科調査官 後藤 秀夫 群馬・小野上中 真庭 幹郎 群馬・沼田西中	講演 「新学習指導要領に於ける特別活動」 ・達成感の充実を目指した修学旅行 ・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	<プラザインくろかみ> 渡辺 康隆 栃木県教委副主幹 松岡芙久子 栃木・小山美田中 大滝 伸一 栃木・宇都宮国本中	講演 「研究成果の確認と今後の課題」 ・主体性を育てる班別行動 ・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	<志津コミュニティセンター> 渡部 邦雄 文部省教科調査官 斎藤 正行 千葉・国分台西中 山田 守人 千葉・柏五中	主題 「集団の中で自己を生かし協力しあう修学旅行をもとめて」 講演 「集団の中に自己を生かす修学旅行」 ・リーダー養成を中心にすえた修学旅行 ・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	<埼玉会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 大磯 宏 埼玉・所沢富岡中 藤川喜久男 埼玉・狭山東中	主題 「教育性を高める修学旅行をめざして」 提言 「学校週五日制と修学旅行」 ・主体性を伸ばす班別行動 ・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	<茨城県立青少年会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 秋田 昌彦 茨城・五所ヶ丘中 安島 一之 茨城・赤塚中	主題 「自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 提言 「新学力を培う修学旅行」 ・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み ・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	<プラザインくろかみ> 大槻 達也 文部省環境教育専門官 田上 富男 栃木・市貝中 古田 真隆 栃木・豊郷中	主題 「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 講演 「修学旅行における生徒の自主性」 ・三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行 ・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	<群馬県生涯学習センター> 高橋 哲夫 文教大学教授 今成 保治 群馬・渋川北中 田村 正紀 群馬・池田中	主題 「主体性を育てる修学旅行」 講演 「これからの学校教育と修学旅行」 ・集団の行動力を高める修学旅行 ・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	<市原市勤労会館> 鈴木 俊幸 千葉・土中 眞野 義幸 千葉・木刈中	主題 「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 ・自主性を育む修学旅行の取り組み ・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方

回	年度	発表者 県・学校名 講師	研究内容・講演内容
33	9	<浦和市民会館> 森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官	主題 「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」 講演 「学校教育の転換と修学旅行への期待」
		田村 俊明 埼玉・鷺宮中	・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行
		金子 桂一 埼玉・鴻巣西中	・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	<水戸市民会館> 岩原美智枝 茨城・日立坂本中	主題 「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」 ・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして
		坂入 秀範 茨城・下館北中	・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	<ブラザインくろかみ> 高塩 博美 栃木・宮の原中	主題 「生きる力」をそだてる修学旅行 ・体験学習を取り入れた修学旅行
		片川 慶子 栃木・毛野中	
		三芝 直美 "	・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
36	12	<群馬県生涯学習センター> 森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官	主題 「生きる力」を育てる修学旅行 講演「これからの学校教育と修学旅行」
		高橋 隆雄 群馬・新治中	・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行
		埴田 栄一 群馬・長野原西中	・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行
		田中 充弘 "	- 総合的な学習の時間を活用して -
37	13	<アミュゼ柏> 田淵 実 千葉・西志津中学校	主題 「生きる力を育てる修学旅行」 ・体験学習を取り入れた班別自主学習
		佐藤 卓 "	
		池田 保 千葉・湖北台中学校	・自ら課題を発見し、自ら計画し、自ら検証する修学旅行を目指して
		澁谷 善武 "	- 修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践 -
		水戸 勝英 "	
38	14	<さいたま市民会館おおみや> 渡辺 勝徳 埼玉・神泉中学校	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行
		関口 陽子 "	
		梅津 稔 埼玉・南高麗中学校	・総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行
39	15	<ブラザイン・くろかみ> 生田目 薫 栃木・国本中学校	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・自己決定の場面を生かした修学旅行
		岩崎 昌美 "	
		田中 弘子 栃木・栃木西中学校 佐藤 宏行 "	・体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発見の旅
40	16	<ホテルレイクビュー水戸> 棚井 義広 茨城・水府中学校	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・修学旅行における国際交流学習の一端
		古内 勝己 "	- 「Why don't you come to Suifu?」郷土紹介のガイドブックを携えて -
		一色 三千男 茨城・第四中学校	・集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方 - 中学校3か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して -
41	17	<水上館> 小淵 誠 群馬・薄根中学校	主題 「修学旅行における『学び』の創造」 ・見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良
		須田 秀昭 "	- 体験的な活動を通して成長する生徒を目指して -
		栗原 和彦 群馬・金島中学校	・生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行 - 総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して -